



谷本 勝俊 議員

### 過疎集落対策について

#### 問

集落が過疎化し、社会的共同生活の維持が困難な状況に対して、地域の現状を把握して、将来の展望をどのように考えているか。

また、過疎集落の活性化策、農業の活性化策、集落の再編策等どのように将来展望を考えているか伺いたい。

#### 答

中村市長

過疎化が進み、社会的共同生活の維持が困難な状況にある集落にお住まいの方々にも行政サービスが確保されるようにしなければなりません。例えば、行政サービスを維持するために、広報区の再編により、交流事業の活性化や定期

的な相互訪問等により、住民が安心して生活できる体制等によって、社会的共同生活を営むことができるようにする必要があります。

過疎の著しい集落に限らず、集落の活性化や農業の活性化は重要な問題であり、集落の活性化は、住民自治の推進であると考えており、現在取組を進めている。

#### 答

産業建設部長

過疎地域の農業活性化対策として、中山間地域直接支払制度では、平成十八年度末現在で一二二集落、一一、一六九戸の農家が参加し、一、一三三

三ヘクタールの農用地の耕作や関連産業施設の維持管理を行い、新たな耕作放棄地の防止や農地が持つ多面的機能の維持増進については農業生産基盤の機能が保たれている。

農業生産振興の活性化策は市単独事業の農業活性化緊急対策事業、農林水産物ブランドづくり推進事業と県単独補助事業の採択を受け、柑橘、びわ、栗等の特産果実の育成、土作りの推進、準高冷地といった条件を活かした花卉、夏秋野菜の生産振興、びわ葉茶

のブランド認定推進など、中山間地域の食材を活かした高付加価値、高収益農業の推進に努めている。

都市農山漁村交流による活性化策は双海地域を中心としたグリーンツーリズムを、愛媛グリーンツーリズムナビ等を活用し、様々な体験交流、各地域の自慢の一品、直売所施設など地域情報の登録を掲載して、情報の発信を行うこととし、今後、中山間地域の特性を活かした農家の民宿などの滞在型のメニューの展開も検討し、地域をあげた農山漁村地域の活性化を進めたい。

### 放置竹林対策について

#### 問

放置竹林が増大し、里山地域の農地や杉、桧等の人工林に進入するほか、竹の過密状態が生じ、多様な自然植生が失われるとともに、水資源のかん養や山腹崩壊防止等、里山の公益性機能の低下が懸念されているが、本市の放置竹林の現状と今後の対策について伺いたい。

#### 答

中村市長

竹は光がなくても成長し、樹木に比べて繁殖力が旺盛で、地下茎は横に伸びるため、隣接の農地等に進入する 경우가多く、竹林の拡大は、自然基盤を脅かすだけでなく保水機能の低下にもつながり、山腹の崩壊など自然災害を誘発する恐れがある。所有者はもろろん、地域住民や集落が一丸となつて竹林の適正管理に努めていただくよう、意識の啓発を図っていかねければならないと考えている。ただ、竹林の大部分が個人所有であり、個人の自助努力により、適切に管理されるべきものと考えているが、補助事業の採択を受けた場合、竹林伐採から植林を行う経費として一〇アール当たり約三十万円前後が必要とされ、更に植林後五、六年は下刈りなどの維持管理費等の受益者負担の問題が生じてくる。

また、他県では、森林組合が伐採した竹を活用し、竹炭、竹チップ等の生産販売を行うなど事業化を図り、竹林の適正管理を促している先進的な事例もあるが、事業化は新た

な設備投資や原料の安定供給等の課題を抱えることとなる。今後、関係機関と連携を図りながら、竹林所有者への意識啓発、放置竹林対策を講じる場合の受益者負担や製材加工等様々な問題を踏まえた上で、竹林の適正管理について研究していきたい。



伊予市内の竹林

### その他の質問事項

- ・ 消防関係について
- ・ 庁舎空きスペースの有効活用について